

市町村が設置する消防本部と消防署のことで、専任の職員が24時間体制で火災予防、消火、救急、救助などの業務に当たる機関を指す。市町村が単独で設置するほか、複数の市町村が共同で一部事務組合や広域連合を組織して設置するケースもある。また、近隣の消防本部へ消防事務を委託する市町村もある。この他に消防団を指す非常備消防がある。

Japan Financial Literacy and Education Corporation (金融経済教育推進機構) の略語。中立・公正な立場から官民一体で金融経済教育を推進する唯一の公的機関 (金融庁所管の認可法人)。



移動における最寄りの駅またはバス停などの交通機関から自宅、会社、観光地等の最終目的地までの区間のこと。

**青木 和也 (新風会)**  
堤ヶ岡飛行場跡地と周辺開発




**質問** 堤ヶ岡飛行場跡地開発事業は、単なる一地区の土地活用だけでなく、本市の都市構造を再編するとともに本県全体の発展をけん引する成長エンジンとなり得る極めて重要性の高いプロジェクトであるが、現在の進捗状況は。

**答弁** 群馬県環境影響評価条例に基づく環境影響評価に着手し、地権者が組合員となる土地区画整理準備組合が設立された。今後、事業化に向けた検討や関係権利者との合意形成が進んでいくものと考えている。

**質問** 開発により既存の農業環境や水利体系に影響を及ぼす懸念があるが、開発区域下流部における農業用水の受益について、本市の考えは。

**答弁** 農業用水の確保は重要な課題と認識している。開発の支障となる水路は移設工事を行い、飛行場跡地の下流域である正観寺地区の農業へ影響を及ぼすことのないよう適正に対応したい。

**宮原田 綾香 (たかさき未来)**  
令和8年度予算の主要事業




**質問** 烏川レストハウスの建設費は、当初約5億円とされていたが、建設費が変更された経緯は。また年間の維持管理費は幾らになるのか。

**答弁** 物価高騰や賃金上昇による工事費の増加により、約9億円を見込んでいる。維持管理費は、レストハウス本体の光熱水費や清掃、周辺緑地の剪定を含め年間3千万円を見込んでいる。

**質問** 複数の大型公共事業の計画があるため、誰のどのような意見から、どのようにして立案に至ったのか、どこまで計画が進んでいるのか、ホームページで公開する「施策の見える化」が必要と考えるが、市の方針は。

**答弁** 総合計画や地方版総合戦略の策定時に、審議会や有識者会議を設置し意見を伺っているほか、パブリックコメントを活用し、広く市民の意見を伺い、概要と併せて公表している。また、広報高崎で市民に広く周知を図っている。

**荒木 征二 (たかさき未来)**  
二輪車の利用環境




**質問** バリアフリーの観点から、歩道における車の出入り口ごとの切り下げ部分や車道との間にある段差の解消について、市の取り組みは。

**答弁** 歩道の切り下げについては、歩道全体を平坦にするセミフラット形式へ改修を進めている。歩道との段差については、道路構造令施行規則に基づき2センチメートルを標準に整備しており、雨水の歩道への侵入を防ぐ等の安全上重要な役割を担っている。今後も現地の状況を踏まえ、整備改修に取り組みたい。

**質問** いわゆるラストワンマイル問題のオートバイ等による交通政策について、市の考えは。

**答弁** ラストワンマイルの移動手段の確保に当たっては、路線バス等既存の公共交通機関の果たす役割が大きいと認識している。市民のさまざまな移動ニーズに対応できるよう、自転車等を含む多様な手段の確保に努める必要がある。

**堀口 順 (市民クラブ)**  
本市のイベント  
道路交通法改正




**質問** 高崎クリスマスマーケットの概要と成果は。また、民間主催イベントとの連携で、本市の冬の風物詩となり、賑わいの創出が期待できるイベントになると考えるが、今後の進め方は。

**答弁** 限定グルメやミニSLの運行、氷を使わないアイススケートリンクが好評で、高崎駅西口エリア全体の新たな冬の賑わい創出に大きく寄与するイベントであったと考えている。今後見る・食べる・体験するイベントとして継続できるよう工夫していきたい。

**質問** 道路交通法の改正に合わせ、中学校入学前の小学校6年生と、高等学校入学前の中学校3年生に自転車の実技を伴う交通安全教育をすべきと考えるが、市の取り組みは。

**答弁** 小学校3年生と6年生で自転車の正しい乗り方や交通ルールの学習、中学では警察署と連携し交通マナーの向上に努めている。

**横田 卓也 (市民クラブ)**  
学校長期休業期間の児童の居場所づくり事業




**質問** 学校長期休業期間の居場所づくり事業の実施には、放課後児童クラブと同様に放課後児童支援員の資格が必要と考えるが、市の考えは。

**答弁** 本事業は、放課後児童支援員の資格を必要とするのではなく、利用人数の多い会場には、教員籍の職員や小・中学校校長OBを配置し、適切に対応できる体制を整えている。

**質問** 本事業は放課後児童クラブが長期休業期間のみの受け入れが整うまでの応急的な位置付けである。受け入れ体制の整備に向けた施策は。

**答弁** 放課後児童クラブでの受け入れが困難である最も多い要因は、支援員の確保が難しいことと考える。そのため令和8年度より、給与改善をしたクラブに対し職員給与改善補助金を創設し、年額で常勤12万円、非常勤3万円の給与引き上げを行うほか、市が出資し設立した高崎学童とともに支援員の確保に努めていく。

**角倉 邦良 (超党派の会)**  
林野火災への対応




**質問** 吉井地域は多野藤岡広域消防の管轄だが、林野火災発生時の応援および協力体制は。

**答弁** 林野火災発生時は、消防団7個分団から消防車両が10台、多野藤岡広域消防からタンク車等が出動する体制となっている。また、延焼拡大する可能性がある場合等は、発生地の方面隊長から近隣の方面隊へ応援要請し、さらなる対応が必要な場合は、群馬県消防相互応援協定や緊急消防援助隊などの部隊増強要請を行う。

**質問** 吉井地域の常備消防を高崎市等広域消防で担い、消防団および消防局の業務を高崎側に一本化できないか。

**答弁** 吉井地域の消防行政に地域から不安や不都合の声はなく、火災等現場においても吉井方面隊が多野藤岡広域消防本部と連携して活動することに特段の問題は発生していないことから、現在一本化に向けての調整等は予定していない。

**渡辺 隆宏 (新風会)**  
デジタル技術を活用したまちづくり




**質問** 国土交通省が推進するプロジェクト・プラトーとはどのようなものか。

**答弁** 日本全国の都市をデジタルツインの技術で3Dモデル化することを目標に、2020年に発足した国土交通省のプロジェクトである。都市における建物や街路をデジタル空間上で再現することで視認性を高め、精密なシミュレーションが可能となることから、まちづくりや防災、自動運転のルート検証など、地域が抱える課題を解決するためのツールとしてさまざまな分野での活用が期待されている。

**質問** 本市におけるプラトー導入の展望は。

**答弁** プラトーは多面的なDXを推進できるが、導入に当たり、相当な費用を要し、また運用後のデータの更新等も必要になっていくことから、先行して導入している他都市の事例等も研究し、費用対効果について慎重に見極めていきたい。

**三井 暢秀 (市民クラブ)**  
豊岡だるま駅  
だるまミュージアム



**質問** 豊岡だるま駅の利便性のため、バスやタクシー、おとしよりぐるりんタクシーを導入する考えは。また、パーク・アンド・ライド用駐車場の有料、無料の現時点での運用方針は。

**答弁** バス等二次交通は現在各事業者と調整を進めているが、早期の乗り入れには課題がある。一方、おとしよりぐるりんタクシーの導入は、有効な手段と考えている。また、整備予定の駐車場の有料、無料の判断は、鉄道運賃との関連もあることから、開業までに決定したい。

**質問** 整備計画が遅れている「だるまミュージアム(仮称)」予定地の暫定活用として、キッチンカーやレンタサイクルを置くなど、駅の利便性向上に取り組む考えは。

**答弁** 建設エリアの確保や駅利用者の安全面から工事が完了するまでは難しいが、ミュージアム開館時の導入について研究していきたい。